



商陽（しょうよう）

病気に負けない免疫とツボのお話 その11

～爪の状態による健康の判断～

普段、自分の爪の状態を確認したりすることはありますでしょうか？東洋医学的に爪を見ることでその人の状態を判断することを爪甲診といいます。例えば、爪の半月があるかどうかで臓腑の正気の状態を判断したり、爪の生際の血色によって寒熱を判断したり、縦筋があることで気の不足の状態を判断したりします。

爪の状態を確認することで自分の状態を確認してみましょう。

商陽の場所：示指末節骨撓側爪甲角近位外方一分

ツボの効能：下痢、胃炎など

第21回東洋療法推進大会in埼玉

会長 佐藤佳孝

このコロナ禍において徳島、大阪、に続いて埼玉で開催された東洋療法推進大会はzoomを利用したハイブリッド及びオンデマンド方式となり、愛媛県では6名が愛媛サテライト会場で、2名が自宅、1名が埼玉で参加した。全体的には、“あはき”業の将来のビジョンについてのシンポジウムで“会の発展”、“療養費”、“視覚障害者支援”、“会員増強”をテーマとして行われた。会期は二日間で、初日は参加者から意見を伺い、二日目に全鍼師会執行部が回答することになった。

意見は多種に亘り、研修会のあり方、無資格者問題への対応、視覚障害者施術者の意識改革、養成校問題、広告ガイドラインの進捗、政治力を使って行政へのあはきの進出、健康企業の生産性を高めるプラン、癌患者へのリンパマッサージによる支援など、大会中にまとめることは出来ない意見であったが、何かしら意欲有る会員の社会的情勢に応じた知恵や行動が業界を押し上げていくのではないかと感じた。

最後には、会長補佐の中野義雄先生から終戦前からの三団体（日鍼会、日マ会、全鍼師会）の歴史的経緯を伺え、各団体の得意分野があり、戦時中の衛生兵が鍼灸師になったり、

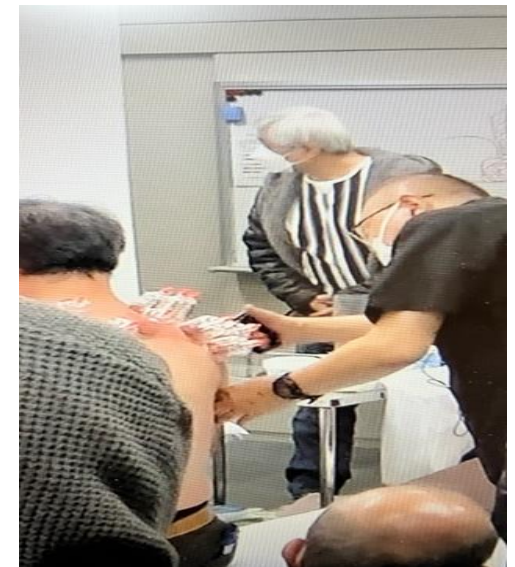
マッサージでは傷病兵が機能訓練や脳卒中のリハビリを担って需要も多かったことや、盲学校制度から、あはき業に就く人が増え全鍼師会の前身として盲人会が立ち上がり、全鍼師会は晴眼者と盲人が一緒になった団体で、鍼灸マッサージの総合団体として社団法人が獲得できたことのお話しが伺えたことは、次の世代を担う会員には知っていただきたい内容であった。

令和4年度第2回青年女性部基礎セミナー

青年女性部長 田窪京子

令和4年12月4日（日）10時～12時、愛媛県視聴覚福祉センター3階 会議室にて「おざき鍼灸院」院長 尾崎敏浩先生による「吸い玉は補法、それとも瀉法」と題してセミナーが盛況のうちに開催されました。東洋医学の陰陽を軽快なトークでわかりやすく、イメージしやすい例を紹介しながらの貴重な講演でした。東洋医学的活用の吸い玉の実技は背中から腰、脚、肩のモデル患者さん3人に行われました。

カメラワークも良く、会場参加、またzoom参加の皆さまにも、間近で見ていただけたと思います。コロナ禍でもハイブリッドにてセミナーが開催できています。



第24回コムズフェスティバル市民企画分科会

事業部長 田窪京子

令和5年2月5日（日）10時～12時、男女参画推進センター・コムズ 視聴覚室A/Bにて開催されました。『知っつく！鍼・灸・マッサージ』～在宅で施術、国が認める保険制度のご紹介～と題して私達の業種が取り扱う保険制度の説明（療養費の取り扱い）のを会話形式でご紹介しました。マッサージでは、脳梗塞の後遺症と寝たきりのおじいちゃんを例に挙げ、鍼灸では坐骨神経痛の患者さんのおはなしをしました。

その後の内容は、ゼンシン体操、東洋医学的健康診断、手技体験・各種パネル展です。過去2回は、コロナ禍で集客無しが続き、今回、初めて来場者の皆さまとの対面での開催だったので、緊張も不安もありましたが、この制度を利用して、市民の皆さまの生活の向上に役立ててもらえるのではないかと期待をしています。

